凡　事　徹　底

当たり前のことを当たり前に

蕨市立第二中学校
学校だより
令和５年度
第２号（５月号）

健康第一

校長　椿　智絵

新緑の季節を迎えました。始業式、入学式から約１ヶ月が過ぎ、生徒たちは新しい環境にやっと慣れてきたところかと思います。緊張もあり、疲れが見えはじめる時期でもあります。ゴールデンウィークは、心と体をゆっくり休ませてほしいと思います。

さて、学校だより４月号では、学校教育目標と校訓について記事を書きましたが、私が校長として学校経営上、大切にしていることがもう１つあります。それは、「心と体の健康」です。生徒も保護者も教員も地域の皆さんも、二中に関わる全ての人が健康であってほしいと願っています。

世界保健機関(WHO)憲章の前文には「健康とは、病気ではないとか、弱っていないということではなく、肉体的にも、精神的にも、そして社会的にも、すべてが 満たされた状態にあることをいいます。」とあります。

単に病気がない、ケガがない、ということではなく、楽しく前向きに毎日を過ごし、多くの人と関わり合いながら心も充実させること、ではないかと思います。

「体の健康」の観点では、この３年間は、コロナ禍にあり、学校では感染症対策を徹底して教育活動を行ってきました。新型コロナ感染症は今後２類から５類に変更になり、それにともない学校での対応も変化することが予想されますが、季節性インフルエンザの流行予防などもあり、基本的な感染症対策は今後とも続くものと思われます。手洗い、換気の励行など、当たり前のことをしっかりと行っていきたいと思います。

「心の健康」の観点では、自分の気持ちを大切にできるようにすることが大切だと思います。

厚生労働省のウェブページ「休養、こころの健康」によると、「こころの健康とは、いきいきと自分らしく生きるための重要な条件である。具体的には、自分の感情に気づいて表現できること(情緒的健康)、状況に応じて適切に考え、現実的な問題解決ができること(知的健康)、他人や社会と建設的でよい関係を築けること(社会的健康)を意味している。」とあります。より良く人と関わり合いながら、何事にも意欲を持って取り組めるときに、心が健康であると言えると思います。

第二中学校では、今年度「主体的に考え、学び合い、高め合う生徒の育成」をテーマに学力向上の学校研究を進めています。単にテストの点数の向上を目指すのではなく、学ぶ意欲を高めることが学力の向上につながると考え、「学級づくり部会」「アクティブラーニング部会」「ＩＣＴ活用部会」の３部会に別れて実践を進めています。

「学級づくり部会」では、学び合いの姿勢を生徒が身につけられるよう、ライフスキルトレーニングの授業を軸とした研究を進めます。「アクティブラーニング部会」では、主体的にそして意欲的に学習に取り組む生徒を育成するために、授業における工夫点や手法を中心に研究を進めます。「ＩＣＴ活用部会」では、学習の質や深まりを高めるための効果的なＩＣＴの活用について研究を進めます。

第二中学校は、今年度も心も体も健康に、学習に、運動に、行事に元気一杯に取り組んでいきたいと思います。保護者、地域の皆様のご支援、ご協力をどうぞよろしくお願いします。

《学校教育目標》
自ら学び、深く考える生徒　（知）
心豊かで、思いやりのある生徒　（徳）
たくましく、健やかな生徒　（体）

蕨市立第二中学校
電話：048-443-2670 FAX：048-443-2671
URL：http://www.warabi.ne.jp/~warabi-2/
e-mail：warabi-2@warabi.ne.jp